

仙台電波高専同窓会報



第58号

発行：仙台電波工業専門学校同窓会
〒989-3128
宮城県仙台市青葉区愛子
中央4丁目16-1
FAX：022-391-6144
E-mail：jimukyoku2005
@dosokai.org.sendai-ct.ac.jp
印刷：株式会社アクトジャパン

平成21年度総会報告

同窓会副会長 工藤久志
(電波通信学科8期)

平成21年度仙台電波高専同窓会・東北支部総会は去る6月13日(土)仙台的ホテルサンルート仙台で開催されました。

当日は56名が出席、佐々木勇同窓会長および宮城光信校長の挨拶があり、宮城光信校長の挨拶では「電波の日」に仙台電波高専が東北無線電信講習所設立以来、情報通信分野の技術者を輩出してきた功績を讃えられ東北総通信局長表彰をいただいたことの報告がありました。

その後、本科16期の赤井澤正利氏が議長に選任された議案について審議が行われました。

総会議案
1. 平成20年度事業報告・決算書
報告及び監査報告

2. 平成21年度事業計画(案)及び予算書(案)
3. 役員補充
東北支部議案
1. 平成20年度活動報告及び会計報告
2. 平成21年度活動計画(案)及び会計(案)

総会議案の平成21年度事業計画(案)では、この10月に宮城高専と統合し仙台高専となることの取り組みとして、同窓会としても将来的に統合を目指すこととし、諸問題解決のため①準備委員会を設立すること②開校式典への協力や審議されたこと③ホームページの充実④高専統合記念号の会報発行⑤学生活動のための用品等の贈呈⑥どんと祭の後援⑦卒業生に対する同窓会ガイダンスの実施について審議いただき満場一致で承認されました。

また、役員補充として電波通信学科3期の大江章氏が副会長に選任されました。

会長挨拶



同窓会長 佐々木 勇

真夏がこないまま秋になり、長い休みとなったシルバーウィーク、皆様方はいかがだったでしょうか。

この秋新しい政権が始まりました、今後の日本の変化に注目が集まっています。私達の生活へ良い影響を期待したいものです。今年卒業された卒業生の方々は調子はいかがですか。

自動車好きの私は、先日スポーツランド菅生へ「エコドライブコンテスト」の応募に行っていました。同窓会東北支部も費用の支援や応援に多

数参加してくれました。母校関係の電気自動車は、私の会社のお客様も制作に参加されていたりと、大変盛り上がり、見事な走りを見せてくれました。天気に恵まれ、今後の大きなイベントに発展へ期待できる内容であり、参加した学生や先生方に感謝したいと思います。

前号でも書きましたが、10月1日に開校記念式典・祝賀会が挙行され、宮城高専と統合されて、校名も「仙台高専」となりました。来春は新学校名での卒業生とな

どんと祭に 参加しませんか

仙台電波高専同窓会では、毎年大崎八幡宮のどんと祭に参加しています。来年1月に、皆さんも一緒に参加してみませんか。提灯と鐘を持つ

仙台高専が スタート



校長 宮城 光信

長年の懸念だった仙台電波高専と宮城高専の高度化再編に伴う統合がスタートしました。キャンパスの統合を伴わない統合ということで、多くの教職員・同窓生は、統合の実質は時間をかけ、緩やかに進んでいくものと思われ

たかも知れません。しかし、学生のニーズ、地域のニーズ、時代のニーズを踏まえた新高専は高度化に向かって急速に、スタートを切り走り始めました。それは、(一)時代の変化に合わせ、仙台電波高専の4学科、宮城高専の5学科が再編され7学科になったこと、(二)地域連携・地域貢献を目指し、地域人材開発本部を設立し、地域イノベーション

同窓会総会に出席して

ニッケル&インフォメーションデバイス株式会社 板垣 静香
(情報通信工学科15期)

私は卒業してから2年目にして初めて同窓会総会に出席させて頂きました。参加する前は、「総会といっても

淡々と進められるのを聞いていればいいのだろ」と思っていました。しかし、参加してみると淡々としたものではなく、細かなところまで資料に目を通すOBの皆様。繰り広げられる意見交換。それは我々の母校である電波高専への感謝の想いがあつたように感じました。私は社会人としてまだまだ未熟だと実感し、このような方々が母校のOBであるということを誇りに思います。

センター、ICT先端開発センター、CIOOP教育センターができ、専任の教員を配置したこと、(三)学生・企業のニーズを踏まえ、専攻科の定員を倍増し、ここにも専任教員を配置し、学生教育を充実させたいとします。学校を運営するための委員会制も、迅速な意思決定がなされるよう、一部、室体制も導入しました。更に、事務部の効率化・再編も行われております。今回の統合により、教員・事務職員は一人も減らない、正に高度化再編です。

仙台高専は仙台電波高専、宮城高専の9学科の学生の教育も担いつつ、同時・並行的に運営されることになりました。教員は9学科+7学科、合計16学科の学生を教育する期間が当面、続きます。教員にとっては大変な時期でもあります。しかし、これは現状の大幅な見直し、学生の自立心の涵養によって必ず乗り切れるものと思います。

困難な時代を乗り切り、新しい時代を切り開くことに貢献するのは技術者です。私達にはその技術者を育成するという重責と喜びがあります。今後も仙台高専をご支援いただきたく、宜しくお願い致します。

懇親会では久しぶりに会った同級生や先輩方と談話し、とても楽しい時間を過ごしました。残念だったのは私達の世代の方が少なかったことです。同じ時期に学校に通っていた仲間と集まる機会は減らないことだと思います。たくさん先輩方のお話がで、貴重な時間を過ごすことができました。

宮城高専と統合し、新しく仙台高専となりましたが、今後も電波高専OGとして、同窓会に貢献していきたいと思っています。

『五期会』だより！ 五期会事務局 千葉 定一



- 全体関係
① H20の卒業55周年記念祝賀会の開催(五年に一度は集まる)
・とき H21 七夕またはお盆
・ところ 仙台近郊の温泉
- 同窓会からの同級会開催の援助、今年も在仙で使用
在仙関係
① 恒例の観校会 H21・4・18
第七回目で初めての満開の観校会12名参加
- 二
② H21・6・27
三浦昇死亡(心不全)
東松島市議会(六期目・現役)
・市評 松山中学の同級生である只笠久夫君が泣きながら「無線放浪歌」で締め。
- ③ ゴルフコンペ
・第一回 H21・5・1
表蔵王国際GCG9名参加(C付)
優勝 東京から参加の只笠久夫君が初優勝
・第二回 H21・8・5
レインボーヒルズGCG10名参加(C付) 優勝 佐藤敏和君が二人の85。外の9名は100以上の大たたき。
・第三回 12月16日(水)
8時半集合
表蔵王国際GCG 西コース
④ H21忘年会 12月16日(水)18時
・遠刈田温泉バーテン家社風そうほう
・会費 一万円
・べ切 11月30日
三 関東以西会
① 懇親会
・10月20日(火)
・熱海温泉H弥生
② ゴルフコンペ
・10月21日(水)
・熱海近郊・幹事 門真

国立仙台高専

開校記念式典・祝賀会を挙

宮城工業高等専門学校と仙台電波工業高等専門学校の高度化再編によって10月1日に新たに設置された「仙台高等専門学校」は、同日、仙台市内のホテルにて開校記念式典・祝賀会を挙

典には文部科学省、県選出国会議員、宮城県知事、仙台市長、名取市長、国公立大学長、国際協定校七大学代表、卒業生同窓会、後援会代表等約400人が出席した。

宮城校長は式辞で「ふたつの高専がひとつになって、これまでに培ってきた技術と英知を融合することにより、さらに高度な技術を身につけながら、人間性豊かで社会に貢献できる人材の育成を目指す」と力強く決意を述べた。

続いて林機構理事長の式辞の後、川端文部科学大臣祝辞を加藤審議官が代読で「専門分野の知識と技術を有し、人間力を備えた国際的に通用する実践的・創造的な

技術者を育成するとともに、科学技術による地域社会への貢献でできる新モデルの高専として期待する」と述べられた。

この後、宮城県知事（伊藤副知事代読）、井上東北大総長、川田みやぎ工業会長がそれぞれ祝辞を述べられ、丹野総務担当副校長による新高専紹介、テノール歌手の美声による新校歌披露、新校歌・校章作品の感謝状の贈呈、祝電披露が行われた。

引き続き行われた祝賀会では、オペラ「トゥランドット」から「誰も寝てはならぬ」を再びテノール歌手の熱唱で始まり、加藤総務担当副校長挨拶の後、数井東北経済産業局長、奥山仙台市長（代読）、内山東北大学大学院工学研究科長、国際交流協定校七大学の代表としてフィンランドメトロポリア応用科学大学アルト総長代理からの祝辞その後、佐々木名取市長の発声

で乾杯した。アトラクションでは、本校学生もメンバーの名取市雷神会創作太鼓の揃い打ちが圧倒的な迫力で会場に響きわたり、続いて伊達政宗の仙台城築城のお祝いに舞ったのが起源といわれる「仙台すめ踊り」の華麗な踊りが会場を魅了して新しい門出を盛大に祝い、最後に四ツ柳元宮城高専校長（代読）石山教務担当副校長の締めでお開きとなった。



【校章】

心のある技術者、そして、心に訴えるモノづくりができる人材を育ててほしいという思いを込めて「心」を図案化



■特色 DIC 254

■プロセスカラー

C100/M60/Y18/K0

■RGB カラー

R0/G93/B153

【高度化再編の図解】



学校沿革

六十五年表

昭和18年1月の財団法人東北無線電信講習所設立から、官立無線電信講習所仙台支所、官立仙台無線電信講習所、国立仙台電波高等学校、国立仙台電波工業高等専門学校を経て、独立行政法人国立高等専門学校機構仙台高等専門学校に至る歴史を記す。

昭和18年

1月22日

財団法人東北無線電信講習所として設立され、仙台市木ノ下41番地に於いて開所

昭和18年

4月1日

特科（入学資格 国民学校高等科卒業、修業年限1年、第3級無線通信士の養成）を設置

昭和19年

11月1日

通信省所管となり、官立無線電信講習所仙台支所となる。

昭和19年

3月23日

特科1期卒業証書授与式を挙

昭和20年

4月1日

官制改正により、官立仙台無線電信講習所として独立

昭和20年

6月21日

青森県弘前に、官立仙台無線電信講習所弘前支所を設置

昭和21年

7月1日

本科甲類・本科乙類（入学資格旧制中学校卒業、修業年限2年、第2級無線通信士・第2級無線技術士の養成）を設置

昭和21年

11月30日

本科甲類・本科乙類第1期入所式を挙

昭和22年

6月27日

本科甲類・本科乙類第1期卒業証書授与式を挙

昭和23年

4月1日

本科甲類・本科乙類を廃止し、選科（入学資格 旧制中学校3年修了者、修業年限3年、第2級無線通信士の養成）及び別科（入学資格 第3級無線通信士有資格者、修業年限1年、第2級無線通信士の養成）を設置

昭和24年

4月15日

選科第1期入所式を挙

昭和24年

4月1日

選科を本科（入学資格 新制中学校卒業、修業年限3年、第2級無線通信士の養成）、特科を第1別科（入学資格 新制中学校卒業、修業年限1年、第3級無線通信士の養成）に、別科を第2別科（入学資格 新制中学校卒業、修業年限1年、第2級無線通信士の養成）に改組

昭和24年

4月25日

本科第2期58名・第1別科第1期(180名)入式を挙

昭和24年

5月3日

第2別科第1期卒業証書授与式を挙

昭和24年

5月31日

国立学校設置法（昭和24年法律第150号）の施行により、仙台電波高等学校となる。

昭和25年

3月20日

第1別科第1期卒業証書授与式を挙

昭和26年

3月15日

本科第1期卒業証書授与式を挙

昭和26年

4月1日

専攻科（入学資格 高等学校卒業、修業年限1年、第2級無線通信士以

上の養成）を設置

4月4日

専攻科第1期入式を挙

昭和27年

3月20日

本科第2期(48名)・専攻科第1期(4名)卒業証書授与式を挙

昭和27年

3月30日

仙台市長町宇越路3番地に移転

昭和28年

4月6日

国立学校設置法の一部を改正する法律（昭和26年法律第23号）の施行により、仙台電波工業高等専門学校となる。

昭和28年

4月10日

電波通信学科（入学定員80名2学級）を設置

昭和28年

5月15日

初代校長に電気通信大学教授工学博士角川正が就任

昭和28年

4月10日

第1回入学式を挙

昭和28年

5月15日

仙台電波工業高等専門学校開校記念式典を挙

昭和28年

3月31日

仙台電波高等学校第1別科を廃止

昭和28年

3月31日

仙台電波高等学校本科及び第2別科を廃止

昭和29年

4月1日

仙台電波高等学校専攻科を廃止

昭和29年

4月1日

事務部の機構が改組され、庶務課会計課・学生課の3課が置かれた。

昭和29年

6月7日

国立学校設置法の一部を改正する法律（昭和29年法律第81号）の施行により、仙台電波高等学校廃校となる。

昭和29年

7月2日

校舎等（講義棟、研究実験棟、図書館棟、体育館、管理棟、寄宿舎（北寮）、学生食堂、渡廊下、物品倉庫、守衛所、車庫、設備機械室、フロア格納庫）竣工

昭和29年

8月1日

宮城県宮城郡宮城町上愛子字北原1番地の新校舎に移転

昭和29年

11月8日

校舎等落成・移転記念式典を挙

昭和29年

12月21日

初代校長角川正が逝去し、校長事務取扱に教授鈴木直吉が任命された。

昭和29年

12月21日

【学科別卒業年表】

卒業年	卒業月	特科	旧本科	本科	専攻科	1別科	2別科	講習科
卒業年	卒業月	特科	旧本科	本科	専攻科	1別科	2別科	講習科
1944	昭和19年3月	1						
1944	" 19 10月	2						
1945	" 20 3月	3						
1945	" 20 6月	4	1					
1946	" 21 3月	5						
1947	" 22 3月	6	2					
1947	" 22 9月	7						
1948	" 23 7月	8						
1949	" 24 3月							
1949	" 24 6月							
1950	" 25 3月							
1951	" 26			1	2	2		
1952	" 27			2	3	3		
1953	" 28			3	4	4		
1954	" 29			4	5	5		1
1955	" 30			5	6	6	3	2
1956	" 31			6	7	7	4	
1957	" 32			7	8	8	5	
1958	" 33			8	9	9	6	
1959	" 34			9	10	10	7	
1960	" 35			10	11	11	8	
1961	" 36			11	12	12	9	
1962	" 37			12	13	13	10	
1963	" 38			13	14	14	11	
1964	" 39			14	15	15	12	
1965	" 40			15	16	16	13	
1966	" 41			16	17	17	14	
1967	" 42			17	18	18	15	
1968	" 43			18	19	19	16	
1969	" 44			19	20	20	17	
1970	" 45			20	21	21	18	
1971	" 46			21	22	22	19	
1972	" 47			22	23	23	20	
1973	" 48			23	24	24	21	
1974	" 49							
1976	昭和51年3月	1						
1977	" 52	2						
1978	" 53	3						
1979	" 54	4						
1980	" 55	5						
1981	" 56	6						
1982	" 57	7	1					
1983	" 58	8	2					
1984	" 59	9	3	1				
1985	" 60	10	4	2				
1986	" 61	11	5	3				
1987	" 62	12	6	4				
1988	" 63	13	7	5				
1989	平成元年3月	14	8	6				
1990	" 2	15	9	7				
1991	" 3	16	10	8	1			
1992	" 4	17	11	9	2			
1993	" 5	18	12	10	3			
1994	" 6	(19)	13	11	4			
1995	" 7	(20)	14	12	5			
1996	" 8	(21)	15	13	6	2	1	1
1997	" 9	(22)	16	14	7	3	2	2
1998	" 10	(23)	17	15	8	4	3	3
1999	" 11	(24)	18	16	9	5	4	4
2000	" 12	(25)	19	17	10	6	5	5
2001	" 13	(26)	20	18	11	7	6	6
2002	" 14	(27)	21	19	12	8	7	7
2003	" 15	(28)	22	20	13	9	8	8
2004	" 16	(29)	23	21	14	10	9	9
2005	" 17	(30)	24	22	15	11	10	10
2006	" 18	(31)	25	23	16	12	11	11
2007	" 19	(32)	26	24	17	13	12	12
2008	" 20	(33)	27	25	18	14	13	13
2009	" 21	(34)	28	26	19	15	14	14
			29	27	20	16	15	15

【校歌】…新たな時代を切り開く高専の夢と意気込み、そして未来へ躍進する姿を明るく、力強く、格調高く表現

三 高専理想と 鍛えし技で
宮城を要に 花咲く文化
新たな息吹 顔にうけ
豊かな創造 時代を拓く
友よ学ばん 希望に燃えて
あゝ 仙台高専 輝く未来

二 志取・広瀬の ふたつの川も
ひとつになりて 大海原へ
友愛を奏でる 波の音
溢れる情熱は 世界をめぐる
友よ誇らん 我らの使命
あゝ 仙台高専 躍る力

一 仰ぐ秀麗 蔵王の峰上
萌ゆる若葉に 心も躍る
自治の旗風 あざやかに
たゆまぬ努力で 教習を磨く
友よ究めん 科学の真理
あゝ 仙台高専 夢呼ぶ我ら

作詞 保岡 直樹
作曲 江村 玲子



【正門の銘板】



【校舎の看板】



【電バスではなくなったバス】



【公用車】

～新学校として
生まれ変わりました～

New!

- 昭和50年
4月3日
第2代校長に元東北大学理学部教授
理学博士平原榮治が就任
- 昭和51年
3月19日
第1回卒業証書授与式を挙行(電波
通信学科54名)
- 昭和52年
3月26日
寄宿舍南寮(RC5・80名収容)竣工
- 昭和53年
3月31日
電子計算機室竣工
- 昭和54年
4月1日
国立学校設置法施行規則の一部を改
正する省令(文部省令第6号)の施行
により、学科の改組が行われ、新たに
電子工学科を設置(入学定員 電波通
信学科40名 電子工学科40名)
- 昭和55年
3月31日
電子工学科研究実験棟竣工
- 昭和56年
4月1日
国立学校設置法施行規則の一部を改
正する省令(文部省令第10号)の施
行により、情報工学科(入学定員40
名)を新設
- 昭和57年
3月15日
情報工学科研究実験棟竣工
- 昭和58年
3月22日
寄宿舍南寮増築(RC5・80名収容)
竣工
- 昭和59年
11月7日
創立10周年記念式典を挙行
- 昭和60年
3月20日
通信情報処理設計工作室竣工
- 昭和61年
3月31日
寄宿舍(女子寮)RC4・50名収容 竣工
- 昭和62年
4月1日
第2代校長 平原榮治が退官し、校
長事務取扱に教授 大林久人が任命
された。
- 昭和63年
4月3日
第3代校長に元東北大学電気通信
研究所長工学博士 高橋 正が就任
- 昭和64年
1月31日
第2体育館竣工
- 昭和65年
4月1日
国立学校設置法施行規則の一部を改
正する省令(文部省令第9号)の施
行により、電子制御工学科(入学定
員40名)を新設
- 昭和66年
3月25日
電子制御工学科研究実験棟竣工
- 平成元年
4月1日
国立学校設置法施行規則の一部を改
正する省令(文部省令第12号)の施
行により、電波通信学科は情報通信
工学科となる。
- 平成2年
3月31日
第3代校長 高橋 正が退官
- 平成3年
4月1日
第4代校長に教授 理学博士 山田竹
實が就任
- 平成4年
10月9日
創立20周年記念式典を挙行
記念碑(空へを建立(同窓会より寄贈))
- 平成5年
4月1日
専攻科(入学定員 電子システム工学
専攻8名 情報システム工学専攻8
名)を設置
- 平成6年
4月16日
第1回専攻科入学式を挙行(電子シ
ステム工学専攻10名 情報システム
工学専攻9名)
- 平成7年
9月22日
専攻科設置記念式典(含・記念講演・
祝賀会)を挙行
- 平成8年
12月12日
技術開発研究センター竣工
- 平成9年
3月16日
専攻科第1回修了証書授与式を挙
行(電子システム工学専攻9名、情報
システム工学専攻6名)
- 平成10年
6月15日
技術開発研究センター竣工披露式を挙
行
- 平成11年
12月15日
専攻科研究実験棟竣工
- 平成12年
10月1日
専攻科研究実験棟竣工披露式を挙
行
- 平成13年
3月31日
国立学校設置法施行規則の一部を改
正する省令(文部省令第13号)の施行
により、独立行政法人国立高等専門
学校機構仙台電波工業高等専門学
校となる。
- 平成14年
2月17日
創造教育棟竣工
- 平成15年
4月1日
独立行政法人国立高等専門学校機
構法(平成15年法律第113号)の施行
により、独立行政法人国立高等専門
学校機構仙台電波工業高等専門学
校となる。
- 平成16年
5月21日
創造教育棟竣工披露式を挙行
- 平成17年
3月31日
第5代校長 渡辺英夫が退職
- 平成18年
4月1日
校長事務取扱に教授 加藤 靖が任命
された。
- 平成19年
4月2日
第6代校長に元東北大学大学院工学
研究科長工学博士 宮城光信が就任
- 平成20年
3月20日
大学評価・学位授与機構から高等
専門学校機関別認証評価において
高等専門学校評価基準を満たしてい
るとして認定される。
- 平成21年
4月1日
事務部が宮城工業高等専門学校事務
部と統合され、宮城地区事務部が
設置される。
- 平成22年
10月1日
独立行政法人国立高等専門学校機構
法(平成15年法律第113号)の一部改正
により、独立行政法人国立高等専門
学校機構仙台電波工業高等専門学
校となる。



修学旅行再び

伊藤 安昌
(本科2期)

去る6月25日に修学旅行で行った北海道登別温泉郷を58年振りに訪れました。当時クラスの見解は、修学旅行の定番である関西方面に決まったのですが、担任だった結城先生が、「就職すれば否応なしに東京や関西に居る機会はあるぞ、北海道はどうだ」との助言で北海道に行くことになったと記憶しています。

結城先生は、船舶通信士を志す者が多いことから、船に乗れる機会のある所を考えていたものと思ひ、連絡船では無線室を始め内部を限なく案内していただき、卒業後は船に乗るであろう我々に、船内での生活や環境などを会得して欲しいかつたものと思ひます。

函館からは列車で次の観光地である白老に向かったのですが、奇跡か、偶然にも女学生の修学旅行と相乗りになり、日頃女学生に接する機会のない我々にとっては、心癒や

かならざらず、また、女学生も仙台の学生とあって興味を持たれたのか、頻りにお互いが気になり、どちらかともなく打ち解け合い、宿泊する登別での旅館も同じとあって意気投合し会話も弾み、友達感情が募っていったようです。

こんなこともあって、旅館では結城先生と芳賀先生が心配顔で廊下に立ち、遅くまで見張りせざるを得なかった2人の先生の姿が懐かしい想い出ともなっています。

我々は、卒業以来、3年ごとにクラス会を開催してきましたが、クラスの中には年配者もいて、若い人も今年は75歳になり、年々参加者が少なくなってきたり、以前から想い出の地である登別温泉へ皆で「修学旅行の再現」をとの思いがあって、やっと実現することになった次第です。

この頃は酒量も落ちて、飲めや歌

本科14期 関東地区 同期の集い「三木会」

伊藤 稔
(本科14期)

毎月の第3木曜日……原宿の「竹下通り」を横目に、一人またひとり足を運び、昔の青年」達の姿がある……

1964年東京オリンピックの年に春に巣立った高校本科14期(専攻科を含む)の仲間達は、もうとくに還暦を迎えているが、今なお益々意気盛んなところがみられる。まだ、現役なみに仕事に奔走している人、前の職場で後輩の指導に当たっている人、悠々自適の人……とい

いる人、前の職場で後輩の指導に当たっている人、悠々自適の人……とい

6〜9名、多い時は2桁を数える方々が集う。近年は同期以外にも卒を広げ、若き後輩の参加も得て、積もる話に花が咲き、賑やかな楽しい一時となっている。

でも最近では、集まるたびに「えっ! この間、集まらなかつたのにな!」という挨拶が恒例になったのは、皆が歳を重ねる事で月日の流れを早く感じるようになったからなのだろうか……? その点、原宿という土地柄と若手の出席は、大きな励みになる。

RR(本科)14期全体の同期会としては、約7年前の晩秋に秋保温泉に集まって以来、ご無沙汰が続いてしまいましたが、この「三木会」から、今年は「是非、久しぶりの全体会にも発展させたい!!」、との声が湧き出ています。是非実現したいと強く感じる昨今です。

「三木会」は、字の如く毎月「第3木曜日」の開催ですが、東京での総会や支部懇親会の後にも、同店でも2次



えの賑やかさはなくなつたものの、久しぶりの出合いに話が弾み、お互いに健康を気遣いながらの宴会でしたが、最後は、元気な声で無線放浪歌を唄い、次回も健康で再会できることを誓いあつて、次の観光地に向けてそれぞれ登別を後にしました。

卒業時は48名でしたが現在では30名となり、体調を崩していた人もいて今回出席したのは19名でした。最後にになりましたが、同窓会の益々のご発展と会員の皆様のご健康を祈念いたします。



会というのが恒例になっています。最初はRR14期で始めた会ですが、特に出席者を制限しておらず、昨今は高校・高専・別科卒の他の期の卒業生にも参加して頂いております。電波高校・高専の卒業仲間が、気兼ねなく集まり、昔話や近況を語り合つたことを趣旨と捉えておりますので、どなたさまでも大歓迎です。一度、顔を出してみてください。

「三木会」の場合は、原宿駅前竹下通りの入り口から北へ約80m、右側の「緑のネオンサイン」が目印です!!

2009年 関東支部懇親会報告

荻原 尚志
(電波通信学科11期)

去る6月27日(土)、関東支部懇親会がホテル銀座フアイナー(日本電話交換業務発祥の地)に於いて、100名を超える会員の皆様のご参加によって開催されました。ここで当日の模様を簡単に報告させていただきます。

懇親会ではお世話になった先生との再会、先生のスピーチも楽しみの一つです。

今回は、会員として関心の高い宮城高専との統合など「母校の現況報告」を、篠科先生にご報告いただき、熊谷先生からは「昔話」をお聞きすることができました。母

東北支部だより

東北支部長 庄子 直人
(電波通信学科7期)

すっかり秋めいた今日この頃、愛子は朝晩冷えてストーブが必要となりました。近々の東北支部活動トピックスをご報告いたします。

1. エコラン支援・応援

8月23日(日)にスポーツランドSUGOにて「2009 電気自動車工コン競技会」が開催され、今年はOBチーム1台、仙台電波チーム2台、仙台電波でのEV製作教室に参加する学生チームの4台、計5台が参加して、結果、総合順位11位をはじめ皆頑張りました。

将来、優秀な電気自動車関連のエンジニアが誕生するかもしれません! 2. ロボコン2009地区大会支援・応援

10月4日(日)山形鶴岡高専にて地区大会が開催されましたが、残念ながら2チーム共に初戦敗退となりました。

今後、同窓会各行事をホームページより動画でご案内出来るように準備中です。ご期待ください!
(http://snet-dosakai.jp/sougoutop.html)

バドミントン部 OB戦開催報告



中島 靖一
(情報通信工学科5期)

6月20日(土)、仙台電波高専第2体育館にて、毎年恒例のバドミントン部OB戦が開催されました。このOB戦は、OBが無謀にも現役選手に挑む試合内容となっており、高専大会前に現役選手への激励と練習相手(?)を目的として開催しております。今年もその季節がやってきて、体育館は熱気と笑いに包まれました。

始めに、現役選手対OB選手による団体戦を実施し、終了後、個人戦(ダブルス)を行うというOB達にとっては過酷な内容となっております。団体戦については、言うまでもなく現役チームの勝利!しかし、個人戦については、なんとOBの選手が優勝しました。OBの意地ですね(笑)。

10年くらい前のOB戦では、個人戦はシングルスをするなど、OBとは思えない戦いが繰り広げられておりました。昨今では、OB側の高齢化および参加者の減少などもあり、開催が苦しい状況になっている

きとなりました。関東支部では今後も継続的に懇親会等の企画をしてまいります。最後に会員皆様の次回ご参加をお願いして、関東支部懇親会の報告とさせていただきます。



【表 1】 2008 年度登録クラブ対抗の結果

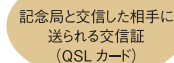
首都圏地区に於いてアマチュア無線部（JAVYCO）のOBが結成した「仙台電波高専OBクラブ」（JARL）が主催する、2008年度登録クラブ対抗で年間総合優勝いたしました。去る5月24日JARL釧路総会にて、表彰状と楯が授与されました。思えば、18年前から静岡県賀茂郡の仁科峠よりフィールドデーコンテストに毎年参加しておりましたが、昨年、高専の無線部が主催する「仙台電波高専アマチュア無線クラブ」から分離独立し、「仙台電波高専OBクラブ」を設立したのが、登録クラブ対抗への通年参加のきっかけとなりました。

JA8NNT
高橋 収
(電波通信学科3期)

表彰を受ける佐藤勝(左:JG6MDS、高専9期)と菱沼弘一(右:JH7VVB、高専8期)

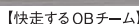
本校アマチュア無線部(JATVOC)および宮城高専アマチュア無線クラブ(JATVCL)では、今年10月1日の仙台高等専門学校の設立を記念するアマチュア無線局の申請を東北総合通信局に行い、それぞれ8J7SK、8N7SKと二つの特別なコールサインの割り当てを受けました。7月10日13時に両記念局の間で記念交信が行われ、開局を祝いました。

本校アマチュア無線部の8J7SKは積極的な運用を行い、国内外のアマチュア局との交流を深めながら新高専のPRを行っていく予定です。この特別なコールサインでのアマチュア局の運用は来年6月15日までを予定しています。



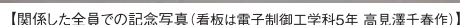
8月22日、23日に宮城県村田町スポートランドSUGOの国際レーシングコースでひらかれた「2009年電気自動車エコラン競技会」はSUGOに、仙台電波のSEVAC 09、YSEVAC 09の2チーム、ならびにOBチーム、さらに、電気自動車製作教室参加4チームが参戦して、自しました。今年は、天候に恵まれて、自動車メーカーやモーターメーカーをはじめ、大学・高校生チームまで合計33台が集い、レースが行われました。

このレースは、競技実施規定で指定された規格の鉛バッテリー(約270Wh)をエネルギー源として、1周約3.7kmのコースを2時間で何周走行するかを競うレースです。



結果は、SEVEN-06が、周回数12で、ジュニア部門8位、総合15位、SEVEN-09が、周回数13で、ジュニア部門6位、総合11位でした。レースに先だって、各種パラメータを推定してシミュレーションを行った結果、両マシンとも8周でした。そこで、5割増しの12周を目標に走行し、今回の記録を達成することができました。しかし、終了後のバッテリー電圧からシミュレータの各種パラメータを見直し、シミュレーション直すとSEVEN-09は17周できるという驚異的な結果が得られました。来年のレースが今から待ち遠しい状態です。大学部での最高成績が、周回数12で、総合12位であったことを考えると、それを上回る仙台電波チームの健闘ぶりは誇れると考えられます。

電子制御99年卒の久保敬氏をリーダーとする仙台電波OBチームも参加し、周回数12で、オープン部門7位でした。その他、電気自動車製作教室チームは、初めての参戦にもかかわらず、7周から9周、あと僅かまで10周という記録を達成しました。電気自動車製作教室チームの活躍ぶりは、「JST支援によるエロコン競技用簡易電気自動車製作教室」の活動報告のページをご覧下さい。



SEV-J 09のドライバは、昨年
に引き続いて電子制御工学科5年
の佐々木朋美さん、SEV-J 09の
ドライバは、電子制御工学科3年
の石川力君でした。彼らの根気強
い走りに敬意を表します。

これらのマシンは、服部正行名譽教授の助言の下、大泉研究室の卒業研究、専攻研究で開発、製作された。車両については、電子制御工学科5年の後藤拓真君、村田崇洋君が中心となって整備し、昨年3月に卒業した元学生会長の藤原亮君の献身的なサポートで完成した。また駆動回路は電子システム工学専攻2年の高橋匠君と電子制御工学科5年の佐々木朋

会費納入に
ご協力お願いします

美さん、同村田崇洋君が主に製作しました。くわえてバッテリー充電やバッテリー管理をバッテリー充電システムの高見澤千春さん、御電子システム工学専攻1年、長屋大地君が担当しました。

今年は、同じピット内に電気自動車製作教室チームもいて、彼らの新鮮なチャレンジマインド、もの作りベテランの技量を目の当たりにし、充実したエコラン競技会となりました。

本年も後援会をはじめ、多くの方々から多大なご支援を戴きました。昨年に引き続き、仙台電波高専一同窓会からも強力なご支援、ご声援があり、チーム同、心から感謝申し上げます。今後とも多くの皆様のご支援をお願い申し上げます。

皆様こんにちは、電波通信学科
6期卒サッカ一部OBの伊藤来喜
です。この度の仙台高専の発足大
変おめでとうございます。
今回は新たに両校サッカー部が
広瀬・名取両キャンパスのサッカ
部としてスタートするの合わせ
OB会として、10月10日名取キャ
ンパスにおいて名取・広瀬両キャ
ンパスサッカー部が対戦する大学
リーグに両校OB会幹事が集まり
、ご挨拶と共に両校現役試合の
応援をなさるということで記念行
事を行いました。

当日は宮城OB会からは副会長の
森谷さんと幹事の西内さんには
出席頂き、また電波OB会からは
私と私の同期の土屋幸範さん、
12期の高橋広幸さんが参加しま
した。宮城OB会副会長の森谷さん
からは、これからお互い切磋琢磨
磨き、私からは今年宮城高専サッ
カー部の全国大会3位のお祝い
申し上げますと同時に、大会で勝

仙台在住の同窓生の交流を目的
としました本懇親会について、今年
度も左記のとおり開催しますので
お知らせいたします。

昨年度参加の方々へは放送通信
各々の支部より本年中にご案内
いたします。また、氏名・会社名・連
絡先(メールアドレス又は住所)を
明記のうえ左記今年度幹事担当
者にご連絡いただければ、追ってご
案内をお送りいたします。

日時：平成22年2月5日（金）
19時～
場所：ホテルコムズ仙台
（旧三井アーバンホテル仙台）
今年度幹事：東北電力㈱
情報通信部 川村祐
w20315@tohoku-epco.co.jp
（電波通信学科17期）

ツカー部OB会会長
伊藤栄喜
(電波通信学科6期)

強い宮城のDNAを広瀬チームにも受け継いで頑張ってもらいたいと挨拶いたしました。その後の大学リーグの対戦では両チームが頑張る3対3の同点となり、今後の両チームの活躍が期待されます。

今回は準備の都合などによりO
B戦は出来ませんでした。が、次回
の機会にはぜひ両OBが集まり親
善試合を行うと共に、両キャンパス
サッカー部がこれからも活発に活
動していけるよう応援していきたい
と思います。



平成20年度 仙台電波工業高等専門学校同窓会決算書

収入の部			
収入	支出	繰越金	
4,450,756 円	3,881,581 円	569,175 円	
収入の部			
項目	20年度予算額	20年度決算額	備 考
前年度繰越金	509,316	509,316	前年度繰越金
会費	3,000,000	2,849,640	針生忠夫氏他1346名×2,000円
入会費	10,000	10,000	宮崎・近江氏より(総会時)
会費	302,000	298,000	高専34回生149名×2,000円 1名休学 1名留年
補助金	1,584	1,590	七十七・仙台・イーバンク銀行
活動費	277,000	382,710	自動販売機収益金
雑収入	0	0	
合 計	4,500,000	4,450,756	
支出の部			
項目	20年度予算額	20年度決算額	備 考
会費	100,000	50,000	残高 約1099万円
印刷費	800,000	754,492	第55,56号会報(カラー印刷)、封筒、振替用紙、他
印刷費	400,000	470,761	総会、役員会、委員会集会、他
印刷費	800,000	741,611	会報、総会、役員会、委員会集会内、他
印刷費	800,000	773,473	レンタルサーバー代、名簿台帳整理、宛名電算処理、他
印刷費	302,000	298,000	高専第34回生149名(名刺入れ)
印刷費	100,000	13,044	祝電(1)、弔電(1)、弔慰金(2)
印刷費	400,000	210,000	現役学生の課外活動等の支援(エコラン、どんと祭)
印刷費	500,000	500,000	東北支部(30万)関東支部(10万)北海道支部活動費
印刷費	250,000	70,000	同窓会補助(電波通信学科4期ほか6件)
印刷費	48,000	0	
合 計	4,500,000	3,881,581	

平成21年5月13日 上記の通り報告いたします

平成21年5月13日 監査の結果正確であることを認めます

平成21年度 仙台電波工業高等専門学校同窓会予算書

収入の部			
収入	支出	繰越金	
4,300,000 円	4,300,000 円		
収入の部			
項目	21年度予算額	20年度決算額	備 考
前年度繰越金	569,175	509,316	前年度繰越金
会費	3,000,000	2,849,640	1500名×2000円
入会費	10,000	10,000	
会費	304,000	298,000	高専35回生152名×2000円
補助金	415,000	382,710	自動販売機収益金
雑収入	0	0	
合 計	4,300,000	4,450,756	
支出の部			
項目	21年度予算額	20年度決算額	備 考
会費	50,000	50,000	残高 約1104万円
印刷費	750,000	754,492	第57,58号会報(カラー印刷)、封筒、振替用紙、他
印刷費	500,000	470,761	総会、役員会、委員会集会、他
印刷費	750,000	741,611	会報、総会、役員会、委員会集会内、他
印刷費	800,000	773,473	レンタルサーバー代、名簿台帳整理、宛名電算処理、他
印刷費	304,000	298,000	高専第35回生152名(名刺入れ)
印刷費	100,000	13,044	祝電、弔電、弔慰金、他
印刷費	200,000	210,000	現役学生の課外活動等の支援、用具の購入
印刷費	500,000	500,000	東北支部(30万)関東支部(10万)北海道支部活動費
印刷費	250,000	70,000	高専第35回生(5万×4クラス)その他の回生(5万1クラスあたり1万円)
印刷費	96,000	0	
合 計	4,300,000	3,881,581	

通信欄だより

総会返信はがき通信欄を使用した通信欄だよりですが、今回もたくさんの方にご記入していただき、誠に有難うございました。これからもご投稿お待ちしております。

本科17期 加藤和雄

この春、宮城県黒川高校(電子機械科)を最後に定年退職致しました。樹齢洋13年、宮水高8年、黒川高8年を無事過ごすことができましたのは、母校で培ったものが原点となり、私の原動力となったと考えています。この場を借りて、恩師ならびに同窓の諸兄に御礼を申し上げます。

情報工学科25期 佐藤静香

現在茨城に転勤となり、交通の不便さからバイクを購入し、買い物からショッピングまで幅広く活躍してもらっています。高専時代にバイクで通学していた先輩や同級生を羨ましく思っていたことをなつかしく思い返しています。

特科8期 沼本昌平

校名から「電波」がなくなる様ですが淋しいですね。

旧職員 久保市太郎

若い頃、軍隊生活を体験した一人です。規律正しい生活は身に付いて、生活上非常に役に立っています。感謝しております。陸軍軍曹に就任してあります。

第1別科3期 大宮恵二

H20年に予定していた恩師を囲むの同窓会が残念ながら実施されなかつた。中島敬三先生が恩師です。本年中に再計画したいです。

第2別科4期 小野賢次

新校名が「仙台」という名称がつかないかと心配しています。相手校より先輩だから当然ともいえるが、今後各位のご苦労に感謝します。

専攻科16期 鈴木喜久男

足掛40年の洋上生活にリトリートで静かに生活に入ります。地区のボランティア活動や畑の方に精を出す日々です。

電波通信学科17期 藤沢 慈

私は現在、長崎空港(日本初の海上空港)に隣接した海上自衛隊大村航空基地で勤務しています。仕事は、基地所在の艦載ヘリコプターの整備に関する品質管理を担当しています。長崎においでの際は、ご一報ください。基地で案内いたします。

情報通信工学科14期 藤澤沙織

社会人二年目となり、徐々に仕事中でも環境にも慣れてきました。社会人生活の中で多くの電波高専の先輩方とお会いする機会があ

りました。皆先端で活躍されておりとても誇りでした。

電波通信学科1期 渡邊信男

電波3校揃った「電波の日」表彰おめでとうございました。

専攻科12期 丸山通則

毎度のことながら、仙台までは行けませんが東京での総会eetcには参加致したい！次の東京での会合を楽しみにしています。

第2別科7期 中田正一

お陰様で71才の現在も元気にしております。現役は引退し、年金生活を送っております。又老人クラブの会長を仰せつくり元氣な高齢社会を育成すべく微力をつくしております。

本科2期 熊谷静夫

あと半年足らずで電波の校名はなくなる。どうしてか、国の方針、決めなのは誰か、隠れた握りの官僚に過ぎない。講習所が高校になり、やがて高い実績を基に高専となった。高校で大学や旧工専の専門書に依る教育が行われていたのでは。級の通信士、技術士の資格を合格したのもその一例に過ぎない。工業、電子の分野で広汎に統合された新たな挑戦となる。M.T並のS.Tを東北に樹立すればいいだけの話。

旧職員 大江みや

電波の字幕が消える事に何とも言えない一抹の寂しさを感じてこの頃です。

本科10期 村上勝臣

JICA海外ボランティアを2003-05(カボジャ)、2006-08(トンガ)と同経験しました。2009.06-12にニュージーランド建設コンサルタントを経験しました。今後チャンスがあれば海外NGOへでも参加したいと考えています。

第2別科2期 渡邊 巖

未だ婆娑と気が抜け切れず、ノロノロと動き回っています。

専攻科6期 田中富夫

H20年10月7-8日水、松島1の坊にて同窓会を開催(2年毎、31名出席(含夫人)。札幌・大阪よりも参加あり、楽しい一日同窓会でした。尚、同期の岩瀬清君が、松島瑞蔵寺のガイドをボランティアとしておりました。

専攻科3期 佐藤 天

年の移り変わりも早いもので小学生も母校を巣立って早や60年近く(この5月喜寿を迎えた)しかし、山下新日本汽船通信長OB会があり、満80歳を越えた諸先輩を前にして老いを語るのは未だ未だと元氣を土座に帰ってきました。

この度、仙台高専として再たの発出との

旧職員 宮城 篤

定年退官をして7年余を経ましたが、福祉関係の仕事、NPO法人の仕事、英語教員大学院のお手伝いなどとして充実した毎日を送っております。

専攻科17期 阿部 欽一郎

生まれかわる母校の更なる発展を期待しております。

本科4期 安部 茂

おかげ様で元気で。

第1別科12期 佐藤俊美

長年つづいた仙台電波の名前がなくなるのは寂しいですね。

関係の仕事、NPO法人の仕事、英語教員大学院のお手伝いなどとして充実した毎日を送っております。

電波通信学科4期 阿部成典

生まれかわる母校の更なる発展を期待しております。

本科4期 安部 茂

おかげ様で元気で。

第1別科12期 佐藤俊美

長年つづいた仙台電波の名前がなくなるのは寂しいですね。

専攻科15期 倉島 陽

木工で明け暮れています。

旧職員 富田恒司

おかげさまで、何とか元気に過ごしております。同窓会の皆様の御健勝と益々の御発展をお祈り申し上げます。

特科6期 飛澤和夫

もう60年も前になりましたが、年に一度の連絡会費の納入に今でも変わらない気持ちで堅持しております。

第1別科1期 布田平左衛門

後期高齢者の部類に入り何とか元気でその日暮らしをしております。

専攻科7期 菊地征治

R7・7 Bクラス 14名で去る5月20・21日に北茨城市五浦観光ホテルでクラス会を行いました。卒業後2年毎に続けております。

本科10期 山中 晃

アルバイトで関連会社で勤務中です。

第2別科20期 宮下賢治

(勇気バリアリ、気力バリアリ、仕事バリアリ)最近、講師試験に合格しました。

専攻科1期 鈴木克次

会費納入者名簿を見て、知人の健在を確認しております。昨年喜寿も無事に迎え、これからは長寿に向けて頑張ります。母校の校名は無くなり残念ですが、同窓生としての思い出は残ります。後輩諸氏の活躍を祈念しております。

専攻科9期 末永和男

学校の統合を機に同窓会も統合することには違和感あり。

本科12期 門脇康郎

同窓会報第57号を拝読。仙台電波高専最後の退職者、服部正行先生の写真を発見。驚きました。なんと佐沼中学(現登米市追分町)時代の同期生です。服部君は優秀な生徒でよく競い合ったことが思い出されます。あれから50年の歳月が過ぎました。

だったが、今の行政書士業務もずいぶん仕事で、毎日が楽しい。おひいにがんばろうぜ、死ぬまで！

電波通信学科4期 阿部成典

昨年は神戸市、そして今年からは鳥取県境港市と各地を転々としております。水産庁の漁業取締船で元気に頑張っております。北海道に帰れるのはいつのことやら・・・

情報工学科12期 中村麗子

母校の名称が変わるなんて想定外でした。「電波」が消えるのはとても淋しいです。

会員計報

旧職員	後藤 芳男氏
特科4期	戸 智道氏
特科8期	佐々木 忠雄氏
旧本科2期	童子 博氏
本科1期	高橋 政幸氏
本科2期	小笠原 固氏
本科3期	加藤 和夫氏
本科5期	三浦 昇氏
本科8期	植木 勉氏
本科9期	庄司 征男氏
本科11期	三好 英弘氏
本科19期	八旗 紘治氏
専攻科5期	寺島 剛安氏
専攻科7期	峯田 潔氏
第2別科1期	三浦 義氏
講習科1期	娘名 義氏
	木村 文雄氏

編集後記

電波「周波数3kHzから3MHzの電磁波のこと」ある辞書にはこう書いてある。しかし、我々の辞書にはもうひとつの意味が書かれている。「仙台電波高専の意」。

10月の統合により校名から電波の文字が消えた。これは終わりを意味するのか。否。これは始まりなのである。新たな一歩を踏み出した母校を、これからも温かく、そして力強く見守っていきたい。(菅原)

近況・出来事・その他
情報お待ちしております

仙台電波高専同窓会事務局

